

# 障がいのある幼児児童生徒の学びを支えるICTの活用（実践編）

障がいのある幼児児童生徒の学びにおいてICTを活用する際は、幼児児童生徒の障がいの状態や認知の特性等に応じた適切なICT機器を選択することが重要です。実践編における各事例では、ICT機器の特徴や効果、活用におけるポイントを紹介しています。

## VRゴーグルを使った「相手の気持ちを考える」SST

VRゴーグルを使用して学校生活や職場を疑似体験できます。VRゴーグルには、友だちとのやりとり、接客体験、職場でのやりとりなど、多種多様なコンテンツが内蔵されています。テレビモニターとは異なり、VRゴーグルを使うと実際に人がいるかのようなリアリティを感じます。これらのコンテンツの体験や振り返りのセッションを通じて、自分と相手の気持ちを考えて行動するトレーニングができます。

### VRゴーグルの中の映像



1

リアリティ

2

興味関心

3

自己理解  
と  
他者理解

実際のエピソードより ～VRゴーグルを使用してSSTを行うことの効果～



### グループワークでの気づき



Aさんは友だちや教員とコミュニケーションをとることが大好きで、いつも自分から積極的に話しかけにいきます。その反面、相手の話を聞くことが苦手であり、自分の趣味のことばかり話してしまうことがありました。また、話の流れに合わせてタイミングよく話しかけることにも課題がありました。

教員はコミュニケーションを取ることが好きであるという、Aさんの良さを生かしつつ、もっとスムーズにコミュニケーションが取れるよう、その場面場面での他者の気持ちを考えて行動や発言ができるようになってほしいと考えていました。



VRのコンテンツの中で、一緒に映画の話で盛り上がっていた友だちが教員に呼び出され指導を受け、落ち込んでいる様子が流れます。指導を受け戻ってきた友だちにどのような言葉をかけるのが良いのかについて考え、グループ内でディスカッションをしました。

最初、Aさんは自分の好きな映画の話をするので、友だちが元気になると考えていました。しかし、どのような行動が相手にとって良いかをグループで意見を出し合う中で、友だちの気持ちが落ち着くまでそっとしておいて、話せようになれば相談に乗ったほうが良いのではないかと、その考えが変わっていきました。

Aさんは相手の気持ちを考えて行動することの大切さと、自分と違う考えを受容することなどを学ぶことができたようです。



ICT  
活用

## ◆ 活動名

## VRゴーグルを使ったSST(自立活動)

## ◆ 授業計画(例)

時	主な学習活動	ねらい	ICT活用のポイント
1	○ VRゴーグルを体験しよう ～パンダの飼育体験やパラグライディング～	VRゴーグルに慣れる。	<ul style="list-style-type: none"> <li>SSTのコンテンツに取り組む前に、動物園やパラグライディングなど楽しい内容を体験することでVRゴーグルへの興味関心を高める。</li> <li>グループワーク後の発表では、ワークシートをiPadで撮影し、大型モニターに映して全員で共有できるようにする。</li> </ul>
2	○ VRゴーグルを使ったSSTの導入 ～テーマ「みんなで映画を」～	VRゴーグルを使った疑似体験をする。	
3	○ グループワーク ～自分の考えと他者の考えの違い～  ○ 振り返り ～改めて自分の行動について考える～	その場にふさわしい対応の仕方について、グループワークを通して考える。	

## ◆ 本時の展開(例) (3/3時)

時間	学習内容・学習活動	指導上の留意点及び支援の手だて等
50分	<ul style="list-style-type: none"> <li>あいさつ、出席確認など</li> <li>自分の考えをまとめたワークシートを使用し、グループ内でディスカッションをする。</li> <li>グループ内で出た意見をまとめて発表する。</li> <li>改めて自分の行動について考える。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>他の生徒の意見を否定せず、受容的な態度でグループワークをするように伝える。</li> <li>グループワークが活発になるよう指導者が「この場合はどうなるか」などの話題を出す。</li> <li>考え方や行動に正解はなく、相手の気持ちを考えた行動をとることが大切であることを伝える。</li> </ul>

## 活用にあたっての留意点

## 【機器について】

- VRゴーグル本体のベルト内にケーブルが入っているため、負担がかからないようにゴーグルの両側を持って扱うように指導する。
- VR酔いを起こす可能性があるため、学習前の体験を通じてアセスメントをとる。
- VRゴーグル内の動画が再生できているかを外から確認することが難しいため、生徒に言葉かけるなどして、適宜確認する必要がある。

## 【子どもの学びについて】

- VRゴーグルを使用するだけでなく、ワークシートの記入やグループワークを行うことで自己理解や他者理解を深めることができる。
- グループワークでは、他の生徒の考えを否定せず、受容的な態度で取り組むよう指導する。
- 児童生徒の生活経験などの違いにも気を付けてコンテンツを選択する必要がある。